

診療体制の全面再開について

2022年2月1日（火）、当院北館病棟で発生しました新型コロナウイルス感染症によるクラスターは、患者さん、ご家族はもとより、地域の医療機関および救急隊の皆さま、ひいては高知県下全体の救急医療に多大な影響を及ぼしましたこととお詫び申し上げます。

予断を許さない状況ではございますが、皆さま方のご協力により院内クラスターは、終息に向かいつつあり人員体制も整いましたので、2月24日（木）8:30よりすべての体制を通常どおりに戻しましたので、ここにご報告いたします。

第6波が押し寄せてきた今年1月時点では、県からの要請により重症患者を対象としたコロナ病棟を立ち上げました。しかし、その時すでに県下全体での救急謝絶件数が急増しており、当院は「地域の救急医療を守る」という役目を果たすべくコロナ病棟を通常のSCU病棟に戻し、救急医療に専念してまいりました。その後、2月1日に発生したクラスターにより、約2週間に及んだ救急外来の完全停止（救急搬入とWalk-in外来を含む）、入院および手術制限などをしなければならない状況となりました。皆さま方には今まで以上にご迷惑をおかけし、多大なるご負担をおかけいたしました。

当院では、クラスターの判明後、緊急の対策会議を行い「早期のクラスター終息」を最優先に感染対策チームを中心として取り組んでまいりました。陽性者数は、ご入院患者71名、職員60名の計131名（2月24日時点）にのぼりましたが、考えられる限りの手立てを講じ、職員が一丸となって全力で取り組んでまいりました。今後もこのクラスターを糧に、更なる感染対策に努め、県下の救急医療、地域医療の確保に邁進する所存でございます。

なお、詳しい経緯や取組につきましては、3月号の院内誌「ひろっぱ」に掲載いたします。当院の経験が皆さまの取組みの一助となれば幸いです。

この厳しい状況の中、ご理解、ご協力いただきました各関係機関の皆さまに心より御礼申し上げます。今後とも皆さまのご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

2022年2月24日
社会医療法人 近森会
救命救急センター 近森病院
院長 近森正幸